令和７年度

# 事　業　計　画　書

社会福祉法人　報恩積善会

養護老人ホーム　報恩積善会

令和７年度

# 事 業 計 画 書

養護老人ホーム報恩積善会では、令和７年度の目標

## 「すべての人が自分らしく暮らし、働き、学び続けられる施設へ」

を目指し入所者、職員、地域の方と共に歩みを進めてまいります。

## １.【個別支援ができる】

入所者の方に対し、一斉支援ではなく個別性を持ち、一人ひとり違う時間軸で暮らしの継続ができるように支援していきます。

## ２.【継続して働ける職場へ】

ICT や介護ロボを活用し、介護負担の軽減を図り、誰もが働き続けられる職場をつくっていきます。

## ３.【施設外で学べる環境づくり】

当会の強みの地域との関りを継続､地域の方と職員との顔の見える関係つくっていきます｡また、他施設と交流、情報交換を重ね、お互いが切磋琢磨環境をつくります。

報恩積善会では、入所者、地域の皆様、関係者、職員がひとつの「和」になれるよう、職員一同力を合わせて取り組んでいきます。

施設長　田淵　由春

# 法人理念『和』

手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さのことです。

私たちは地域の一員として互いの手を携えて、誰もが和やかに生活できる社会の実現を目指します。

## ≪施設運営方針≫

### ○地域の中の拠点施設となるべき開かれた施設を目指す

地域の中の福祉拠点として、地域の人たちにも開放し地域福祉の向上を目指します。

### ○人生の最終コーナーを廻っている人たちのよき伴走者であれ

「してあげる介護」から「寄り添う介護」へ

小さいひとつひとつのことに他人を思いやる優しい心を込めて関わること。

≪伴走者の心得≫

○利用者の尊厳と尊重

丁寧な対応と同時に、相手を尊重し大切にする心をもちます。

○洞察力

高齢者の「現在」だけを見るのでなく、私たちと同じ溌剌とした「過去」があったことを認識し、相手の心の奥にある真の思いを察する努力をします。

○自分を良く知ること

自分の関わり方、介護の仕方を振り返る謙虚さをもちます。

○介護は相互の人間関係

入所者から教えられ、学びながら仕事を続けていることを認識します。

○人生の総仕上げの支援

入所者が人生の最期を私たちにゆだねていることに感謝する心をもちます。

≪行動指針≫

① 私たちは、社会の一員であることを自覚し地域に貢献する取組を行います
② 私たちは、入所者と共に QOL の向上を目指します
③ 私たちは、常に相手に感謝の言葉を伝えます。
④ 私たちは、互いを尊重し合いチームワークを大切にします
⑤ 私たちは、目標をもって仕事にチャレンジします
⑥ 私たちは、向上心をもち常に成長し続けます

【運営ビジョン】

「自分たちが入居したい施設をつくろう」

【令和７年度目標】

「すべての人が自分らしく暮らし、働き、学び続けられる施設へ」

① 個別支援ができる

② 継続して働ける職場へ

③ 施設外で学べる環境づくり

【職員行動基準】

職員は行動指針と共に行動基準に沿った考えのもと、目標達成に向けて職務を行います。

１．根拠ある安全性　⇒　２．謙虚さ　⇒　３．積極性　⇒　４．効率性　⇒　５．個性

【各部署目標と行動計画】

【介護】~「気持ちに寄り添った支援、笑顔を生む環境づくり」

○入所者が安心感を持ち、自分らしく生活できる環境を提供する

○声かけや表情など、安心感が伝わるコミュニケーションを意識する

○毎日「ありがとう」と言い合える文化を職員と入所者の間で醸成し、より良い環境をつくる

【看護】~「入所者の思いを受け止め、心に寄り添える支援をする」

○思いやりの心と笑顔で丁寧に対応し、相談しやすい存在となる

○多職種との情報共有・協働し、異常を早期発見し健康管理を行う

【調理】~「入所者に満足いただける食事の提供」

○嗜好調査や会話から入所者の希望を聞き、献立に反映する

○季節感のある献立、おやつを提供。食事を楽しんでもらえるように努める

○栄養アセスメントを実施し、食事面でのケアを図る

○入所者にゆっくりと食事を楽しんでいただける環境づくり

【事務所】~「和」を広げる

○関係機関等と定期的な連携、空床情報の提供と共に、施設の特色を知ってもらう機会を持つ

○施設の受け入れ体制を整え、スムーズな入所調整を行う

○地域、ボランティア、学生のつながりを維持しながら新たな発掘にもつなげる

○個別ケアに向けて、その人らしく生活を送れるように ACP・看取り対応を含めて多職種でのカンファレンス内容を充実していく。

【調査研修関係】

1　会議及び研修会へ積極的に参加を促し、職員の資質と見識を高め共有し入所者ケアの向上に努める。また自主的な外部研修参加に対しては、各種助成を行い職員のスキル向上を支援する。オンラインも活用し施設内外だけでなく他県との交流ができるよう支援を行う。

2　福祉施設研修大会においては、他施設の職員と交流を図り、現場における実践研究発表を通じて学び合い、積極的に取り入れ実践しサービスの質の向上を行う。また研修大会にて取り組みを発表し日々のケアを振り返る機会とする。

3　参考図書は積極的に購入し、福祉だけでなく広く見識を養い自己の研鑽に励む。なお、参考図書は事務所カウンターの所定場所にて自由に閲覧できるようにする。

4　施設内での定期的な会議や ICT を活用し情報共有を行うと共に、会議は学習の場として位置付け職員の資質向上に努める。

①事業計画発表会

新年度の事業計画策定に当たり、職員参加のもと意見を集約し新しい年度に向けての共有を行う会議とする。

②職場研修

年間スケジュールのもと職場内研修を実施し、職員のスキルアップと入所者ケアの向上を目指す場とする。またオンライン研修を毎月実施し、効率的に必要な知識を得る機会を設ける。

職場外研修には、職種や役職毎に必要なスキルアップが図れるよう積極的に参加を促す。また公募等にて主体的に参加できる機会も設ける。

③職員会議

各研修会の報告や施設内研修を兼ねた会議とし定期的に開催する。

④主任者会議

定期的に各部署生じている課題を持ち寄り、課題の早期発見と解決、部署間の情報共有を促進しより円滑な業務運営と組織の発展を目指す。

⑤臨時会議

早期の対応が必要な場合に、多職種で集まり対応を検討する。

⑥カンファレンス・生活支援会議

生活支援計画、ケアプランの作成及び見直しを多職種にて検討する。

【ケア関係】

①食事について、旬や地域の食材を使った郷土食、また入所者の希望を取り入れた食事を考え、日々の体調や身体状況を把握し、ADL に合わせた食事ができるよう栄養管理に努める。また楽しく、おいしく、落ち着いて食事ができる環境づくりを行う。

②看護職員による日常の健康度のチェック、服薬管理、岡山済生会総合病院嘱託医による週１回の往診及び昭和町健康管理センターによる年１回の健康診断の実施、協力医療機関との連携、必要に応じて近隣医院への往診依頼等を行い健康管理に努める。

③入所者と共に室内外の清掃及び整理整頓等を行い、清潔で快適な生活環境の維持と感染予防や安全管理の視点も取り入れ、毎日が生き生きと生活できる環境づくりに努める。

④入所者が健康度や心身機能に応じて参加できるクラブ活動、施設外活動、各種行事の他、楽しみやりがいを得られるアクティビティを入所者と共に企画・検討し ADL の向上と QOL の充実を図る。また入所者の社会参加への働きかけや地域活動を共に実践し、社会とのつながりを作りやりがいが得られるよう支援する。

⑤入所者が最後まで自分らしく安心して生活できるよう、定期的に多職種で本人や家族の声を聞き取り思いに沿った看取りケアを実践する（ACP の実践）

⑥入所者の個別ケア充実のため、ICT を活用し生産性を高め、質の高いケアの提供に努める。

【対地域、対家庭】

1　行政機関と「生活支援短期入所事業」の委託契約を締結し、地域の高齢者や支援が必要な方の受け入れを行う。また地域の高齢者に対して配食サービスによる日常的な食事支援や会食サービスを通じた交流の場を提供し孤立の防止や健康維持を図り、地域の福祉向上に貢献し安心して暮らせる地域づくりを目指す。

2　学校からの実習依頼については、実習生の学びの場としてだけでなく職員自身が学びを深める機会と捉え、障害者の就労訓練実習や支援を必要とする子どもの実習、中間的就労支援など幅広い社会ニーズに対応した受け入れも積極的に実施する。さらに職員が地域に出向き、専門的な知識や技術を地域資源として共有し、福祉教育の推進に努め、地域社会全体の福祉意識の向上と支援体制の強化に寄与する。

3　施設内行事には、地域の高齢者や住民を招待し、地域交流を深める機会を提供する。また、学生や若者の参加を促しボランティアの育成を図るとともに、施設の取り組みや役割について情報発信を行う。さらに、地域で開催される行事にも積極的に参加し、地域の一員として主体

的に活動を行い地域住民とのつながりを深め相互に支え合う関係づくりを目指す。

4　入所者、家族、地域住民やボランティア等誰もが訪問しやすい明るく清潔感のある施設環境を作る。また、SNS やホームページにて情報発信に努め、年 1 回機関紙「ほうせき」や他職種で地域への情報発信を行う「HOUSEKI NEWS LEITTER」を発行する。

5　地域住民や団体と協働し公益的な活動を行います。また、職員全員が積極的に参加できる体制を整え、地域のニーズに応じて柔軟に対応できる取り組みを進める。

・給食サービス（配食・会食）
・ほほえみカフェ（認知症・地域交流カフェ）
・認知症サポーター養成講座
・地域の福祉資源としての食堂及びふれあいホール等の貸し出し
・福祉車両の貸し出し
・幼稚園、保育園及び小中高の学生に対する福祉体験や施設見学
・高齢者や障害者等に対する実習の受入れと多様な雇用機会の確保
・つしまみんな食堂（協働にて開催）
・積善会祭、地域交流会、ほうせき夏祭り等施設行事の地域開放
・フードドライブ物品配布やフードバンクの中間的支援

6　多分野の企業や各種団体、他法人とも情報交換や交流を図り、連携しながら多様な地域ニーズへ対応する。また地域の担い手を育成する取り組みを通じて地域社会への貢献を目指す。

7　町内会など地域団体と連携し地域の防災活動に積極的に参加する。また、福祉避難所としての支援に留まらず、要配慮者の避難計画を作成し訓練や実践を通じて避難の確実性を高める。さらに、施設の BCP を地域全体に理解してもらえるよう情報提供などを行い、防災に関する知識の共有や連携の強化に努め、災害時に地域と施設が一体となって迅速かつ的確な対応ができる体制を構築する。

【月間行事】

（1）　施設内活動

1、給食相談

入所者と職員が個別に意見交換を通じて食事に関する要望や好みを聞き、入所者の QOL（生活の質）向上を目指した食事作りを進める。

2、常会

毎月入所者と職員が集まり、日々の生活に関する要望などお互いに意見を交換し快適に生活ができるよう話し合いや行事等の報告を行う。

3、クラブ活動･文化活動

健康度や心身機能に応じて参加できる活動を考え、QOL 向上及び残存能力の維持向上に努める。また、施設運営方針である「地域に開かれた施設」として地域住民の参加を呼びかけ入所者や職員との交流、地域の居場所づくりとなるよう活動を行う。

4、誕生会

入所者、職員、家族を招待し食事を食べながら誕生者を祝福する。またカラオケを披露する場を設けて楽しみが得られる場とする。

5、売店

週 1 回売店を開き、外出できない入所者の方にも買物を楽しんでもらえる場とする。

6、喫茶

ボランティアの協力のもと、入所者の楽しみの場や地域とも交流を深める場とする。

7、おやつ作り

入所者の楽しみの場になり調理職員との関わりを深められるよう実施する。

8、移動図書館

月 1 回市立中央図書館の移動図書が来会し入所者に読書が楽しめる機会を提供する。また地域の方にも利用してもらえるよう広報を行い地域交流のきっかけを作る。

9、避難訓練

非常時に備え年 2 回全体で消防避難訓練、地震・土砂等の自然災害に対して年 1 回以上の避難訓練を実施し入所者の安全確保と職員の防災意識向上に努めます。また BCP に沿ってマニュアルの見直しや机上訓練等を実施し職員の対応能力向上を図ります。

市と福祉避難所の連携を図ると共に、地域の自主防災会等各団体との連携を密にし、情報交換や共同での防災訓練などを行い地域全体での防災体制の強化に貢献します。

（2） 施設外活動

入所者の要望にそった計画を立て、多くの入所者が参加できる活動を実施する。

① 花見ドライブ（3 月下旬～4 月上旬）　② 蓮見学（7 月中旬）

③ 紅葉見学（11 月中旬）　④ イルミネーション見学（12 月中旬）

⑤ 初詣（1 月中旬）　⑥ 外出支援（入所者個々の要望に応じて適宜実施）

【施設年間行事】

| | | |
|---|---|---|
| 4 月 | ひな祭り<br>お花見 | 桃の節句を祝ってお茶会<br>桜の下での祝宴 |
| 5 月 | | |
| 6 月 | 大掃除<br>地域交流会 | 室内外の大掃除の実施<br>近隣住民やボランティアを招いての交流会 |
| 7 月 | 摩利支天祭り | 摩利支天王様の夏祭り |
| 8 月 | 七夕祭り<br>盂蘭盆<br>ほうせき夏祭り | 誕生会を兼ねて七夕祭り<br>盆の法要にて創設者の墓参り<br>入所者及び地域住民との夏祭り・盆踊り大会 |
| 9 月 | 敬老の日<br>創立記念日 | 敬老の日の祝宴<br>創設者並びに関係者の慰霊祭と祝宴 |
| 10 月 | 運動会<br>秋の健診 | 地域の高齢者、保育園児を招待し合同運動会<br>秋の健康診断の実施 |
| 11 月 | 積善会祭 | 地域住民の交流を目的とした秋祭り |
| 12 月 | 忘年会・ｸﾘｽﾏｽ会<br>餅つき<br>すす払い | 1 年間の健康を祝す忘年会とｸﾘｽﾏｽ会<br>1 年の締めくくりとしての餅つき<br>室内外の大掃除 |
| 1 月 | 新年会<br>初　釜 | 新年の祝賀会<br>茶道クラブによる年始めの茶会 |
| 2 月 | 節分会 | 年男･年女が豆をまき、1 年の平安を祈る。 |
| 3 月 | 彼岸会<br>健康診断 | 創設者と報恩積善会供養塔の墓参り<br>入居者全員の健康診断の実施（昭和町健康管理センター） |

## 【社会福祉法人報恩積善会　SDGs への取り組み】

社会福祉法人報恩積善会は地域とともに、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく取り組みを進めています。法人理念の「手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さ」、SDG s が目指す「誰一人取り残さない」目標に向けて一つ一つ取り組みを実践します。

| SDG s 目標 | |
|---|---|
| 目標４：質の高い教育をみんなに | 実習生の受け入れや幼保・小中高校生への出前講座等福祉教育に取り組みます。 |
| 目標８：働きがいも経済成長も | 職員のキャリアアップ支援や多様な働き方を推進し、働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりを進めます。また高齢者採用や職業訓練等の受け入れを行い雇用促進と地域経済の活性化に寄与します。 |
| 目標１１：住み続けられるまちづくりを | 誰もが安心して過ごせる地域社会を目指し、地域がつながる取り組みを私たちも地域の一員として協働しながら実践します。また災害時に住民も安全に避難できるよう地域団体と仕組みづくりを構築します。 |
| 目標１２：つくる責任つかう責任<br>目標１４：海の豊かさを守ろう | フードバンク団体や地域のフードバンク活動と連携し食品ロス削減に取り組みます。また環境に配慮した製品の使用やプラスチックごみ削減へ取り組みを行います。 |
| 目標１７：パートナーシップで目標を達成しよう | 業種、団体や地域を超えてつながりを作り、課題解決に向けたパートナーシップを推進します。 |